



機敏な動きで見事な団結力をみせた規律訓練。



本番さながらの消火活動を競い合った小型ポンプ操法。

## 日頃の訓練を競い合う 仙北市消防訓練大会

7月2日、仙北市消防訓練大会が落合運動公園駐車場で、市内の消防団10分団から、小型ポンプ操法の部に22チーム、規律訓練の部に7チームが出場しました。出場した団員は日頃の訓練の成果を発揮し、息の合った動きをみせました。各部門の上位3チームは7月16日に大仙市で行われる大仙・仙北・美郷支部消防訓練大会に出場します。

主な成績は次のとおりです。

**小型ポンプ操法の部**

優勝 第4分団2班（神代地区）  
準優勝 第8分団2班（白岩地区）  
第3位 第4分団1班（神代地区）

**個人賞（小型ポンプ）**

指揮者 高橋英樹（第4分団2班）  
1番員 佐藤真也（第4分団2班）  
2番員 本田翔平（第10分団1班）  
3番員 三浦光洋（第4分団2班）

**規律訓練の部**

優勝 第8分団（白岩地区）  
準優勝 第9分団（雲沢地区）  
第3位 第7分団（角館地区）

## 田沢湖クニマス未来館がオープン

7月1日、田沢湖畔に田沢湖クニマス未来館がオープンしました。当日はあいにくの雨となりましたが、関係者約90人が出席。神事が行われた後、テープカットのセレモニーが行われ、オープンを祝いました。門脇市長は「田沢湖が歩んだ歴史や背景を知ってもらい、これまで行われてきた対策や効果、現状に関心を持ってもらうことが必要だ」と思います。命であふれる



田沢湖畔にオープンした田沢湖クニマス未来館（上）。晴れた日はバルコニーから田沢湖が一望できます（下）。（6月24日撮影）

田沢湖を取り戻すため、息の長い支援をお願いします」と式辞を述べました。また、渡辺喜久男富士河口湖町長が「クニマスに『ここが君たちが生まれ育った故郷、田沢湖だよ』と声をかけました。これから、日本一深い田沢湖と日本一高い富士山とクニマスのつながりで、より深い交流ができればいいなと思います」と祝辞を述べました。引き続き、田沢湖再生クニ

マス里帰りプロジェクトアドバイザーの中坊徹次氏と三浦久氏による記念講演が行われ、田沢湖再生に向けた取り組みの必要性を呼びかけました。田沢湖クニマス未来館は午前9時から午後4時まで開館。観覧料は高校生以上300円、小中学生150円。仙北市民は無料（仙北市民と証明できるものを持参ください）。



クニマスが泳ぐ姿をじっくり観察したり、田沢湖の歴史について学んだりする来館者。

## 仙北市を舞台に温泉を通じた国際会議

6月19日、台湾と章津・指宿など日本有数の温泉関係者による国際会議「台湾アジア太平洋国際温泉観光協会秋田・仙北市玉川大会」が駒ヶ岳グランドホテルで開催され、約100人が出席しました。

会議では、本年度の事業計画などを決めたほか、温泉を活用したヘルスケアツーリズムについて門脇市長が講演しました。また、20日には市議会観光振興議員連盟による歓迎昼食会が角館町グランドールガーデンで開催され、台湾と仙北市の関係者が温泉や文化を通じて交流を深めました。



駒ヶ岳グランドホテルで開催された国際会議。



温泉を活用したヘルスケアツーリズムについて講演する門脇市長。



歓迎昼食会では、餅つきやそば打ちなど日本文化でおもてなし。

## 田沢湖図書館招致による 超大型絵本の読み聞かせ おまえうまそうだな



読み聞かせ中「おまえうまそうだな」の主人公ティラノくんが登場！子どもたちは大喜びでした。

6月18日、仙北市民会館で超大型絵本を使った「おまえうまそうだな」の読み聞かせが行われました。また、ロビーでは絵本作家・塚本やすし先生が自身の作品である「このすしなかに」や「42本のローソク」などを読み聞かせ、子どもたちは面白い話に笑顔を浮かべながら楽しんで聞いていました。その後行われたワークショップでは、ティッシュと折り紙を使ったおすし作りが行われ、参加した子どもたちは、お父さんやお母さんと一緒に美味しそうなおすしを作ろうと夢中になっていました。



塚本やすし先生による絵本の読み聞かせ。



ワークショップ「おすしを作ろう」

## 住宅デーにボランティア



**職人一人ひとりが支え合う**  
6月18日、秋田建築労働組合角館支部による「第22回住宅デー」が開催されました。立町ボケットパークで無料住宅診断や包丁研ぎなどが行われたほか、だしのこ園では9人の職人がボランティアで園内の靴棚や引出しなどの修繕を行いました。大石良助角館支部長は「今後も子どもたちが安心して遊ぶことができるように、この活動を続けていきたい」と話しました。



だしのこ園では、靴棚や引き出しの修繕作業などが行われました。

## 元陸上選手が「夢の教室」



**夢に向かってチャレンジ**  
6月21日、日本サッカー協会主催の「夢の教室」が中川小学校で開催され、中川小学校と西明寺小学校の5年生あわせて28人の児童が、元陸上選手の秋本真吾さんの授業を受けました。前半は体育館でゲームを行い、後半は教室で夢を持つことの大切さを伝えました。秋本さんは自身の経験を踏まえ「どんなことにも本気で取り組みれば、夢は必ず近づく」と話しました。



秋本さんの指導のもと、体育館で授業を受ける児童たち。

## 松山隆宏さん熱唱ライブ



**アンコールも飛び出す**  
6月16日、仙北市民会館でオーコンサート「松山隆宏ライブinオーコンサート」が開催されました。松山さんは全国をまわり、年間130か所を超える公演を行っているソロミュージシャンで、仙北市は初めてとなります。当日は、今まで公演を行った地方でのエピソードトークを交えながら、自身が作詞作曲した歌など全12曲を披露し、訪れた観客を魅了しました。

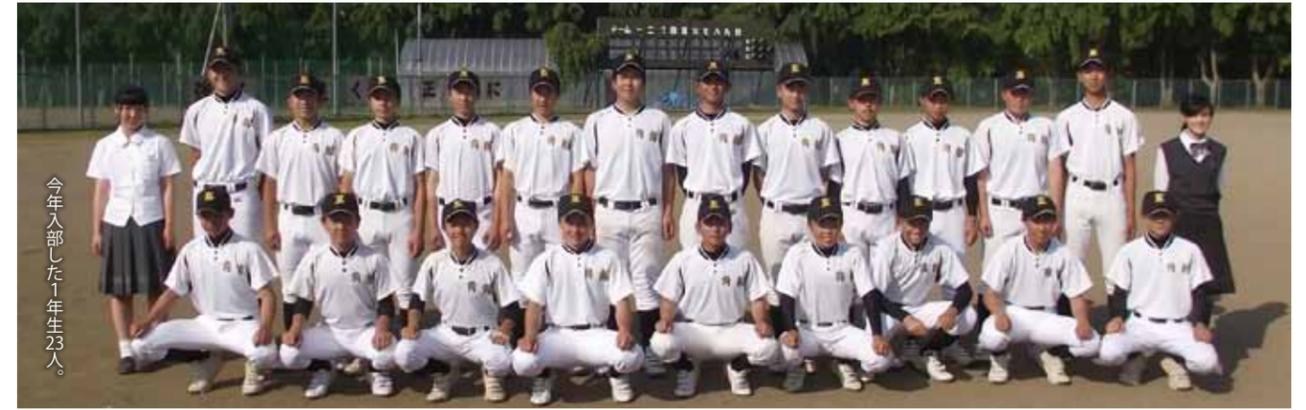


仙北市で初公演。弾き語りを披露する松山さん。

**せんぼくふるさとマイスターに太田京治さん**  
5月29日、太田京治さん（松木内字松葉）が「せんぼくふるさとマイスター」に認定されました。太田さんは約60年間、仕事の合間に独学でアケビの蔓を使って花瓶や小物入れなどを編んできました。西木まつり（現仙北市産業祭）で入賞したことが始めたきっかけと言います。デザインや編み方を頭の中でイメージして、だいたい5時間ほどで編み終わり、納得しなければすべて最初から作り直すというこだわりも。太田さんは「学んでみたいという方がいれば、ぜひ教えたい」と話していました。



左から順に門脇市長、太田京治さん、推薦者の野中秀人さん。



今年入部した1年生23人。

## 角館高校野球部地域サポーター事務局から

サポーター各位のご支援により昨年度は「折りたたみ式バッティングゲージ」を寄贈させていただきました。

今後ともサポーター各位、市民の皆さまの野球部へのご声援をよろしくお願い申し上げます。

角館高校野球部地域サポーター事務局 代表 菅原一正

寄贈されたバッティングゲージで練習する選手たち。



角館高校野球部 主将 大石柊斗

今年も「すべてのチームに勝つ」という目標のもと練習に励んできました。その結果、秋季・春季ともに東北大会に出場することができました。東北大会で各県の強豪校と戦うことで、一球、一つのプレーの大切さを感じ取ることができました。この経験を甲子園予選に活かし、今年の夏こそは必ず決勝の舞台で勝利します。応援よろしくお願い申し上げます。

角館高校野球部 監督 湯澤 淳

今春、1年生23人が入部し、67人で現在活動しております。地域の方々のご声援とご助力のおかげで、春季県南大会を連覇し春季東北大会にもはじめて出場することができました。大会の結果は満足いくものではありませんでしたが、角館高校らしい粘り強い野球をすることができました。取り組んできた練習の成果が少しずつ形になってきているのを感じています。昨夏の決勝での敗戦を糧にここまで全員が目標に向かって努力してきました。甲子園予選は、強い思いを持って向かってくるチームばかりですが、それをはねのける「心」を鍛えてきました。今年こそは、甲子園で戦う強い角館高校をみせることができると信じています。野球部一同、感謝の気持ちを持って精一杯戦いますので、応援よろしくお願い申し上げます。

## 成功事例から学ぶ「道の駅」講演会

6月25日、西木温泉クリオンで道の駅十文字駅長の小川健吉氏の講演会が開催されました。小川氏は、十文字町長の頃から道の駅構想を提唱し、2007年9月の「道の駅十文字」開業当時から指揮を執りました。「始めは議員の反対が多かったが、県外の成功している道の駅を視察するなど、多くの方々の協力を得て開業にこぎつけた。ただ建物を建てて産直をやるだけでなく、人を集めるため、コンサートなどのイベントもできるように、天井を高くして木材を使ったこだわりの多目的ホールも設けた。『道の駅を成功させるんだ!』という前向きな気持ちがなければ成功しない」など、自らの経営手法を熱く語り、参加者は真剣に耳を傾けていました。



赤いエプロン姿でパワフルに話す小川氏。

## 平成29年度国民体育大会東北ブロック大会 第44回東北総合体育大会カヌー競技



巧みにパドルを操り急流に挑む佐藤彩乃選手。

6月17日・18日に生保内カヌー競技場で、平成29年度国民体育大会東北ブロック大会兼第44回東北総合体育大会カヌー競技（スラローム・ワイルドウォーター）が開催され、市内の3選手を含む秋田県選手5人が、9月に開催される「えひめ国体」への出場を決めました。秋田県選手の結果は次のとおり。※敬称略（ ）は所属。  
男子スラローム（カヤック）1位 佐々木翼（秋田県カヌー協会）  
男子スラローム（カナディアン）1位 佐々木翼（万六建設）  
男子ワイルドウォーター（カヤック）1位 佐々木優（秋田県体育協会）  
女子スラローム（カナディアン）1位 佐藤彩乃（秋田病理組織細胞診研究センター）  
女子スラローム（カヤック）2位 鈴木恵子（クリナップ）

## 第11回 大仙・仙北・美郷 畜産共進会



田口春美さんの「はるにしき 367号」

6月16日に大仙市のささくら公園で、第11回大仙・仙北・美郷畜産共進会が開催され、西木町小山田の田口春美さんの「はるにしき 367号」が、第1部(肉用牛の部)第3類(若雌の2)で、優等賞を受賞しました。市内からは11農家22頭が出陳し、11頭が上位入賞を果たしました。成績は次のとおり。〈敬称略〉

第1部 肉用牛 ▽第1類(育成雌) 1等賞2席 におつ319号 相馬勲(角館) ▽第2類(若雌の1) 1等賞1席 あさかせ48号(豊藤村農場(田沢湖)) 1等賞2席 第60くろやま号 黒山春雄(角館) ▽第3類(若雌の2) 優等賞はるにしき367号 田口春美(西木) 1等賞1席 はるこ号 高橋拓治(角館) 1等賞2席 つるだ88号 菅原孝作(角館) ▽第4類(義平福娘牛) 2等賞 におつ306号 相馬勲(角館) ▽第5類(若雌の3) 1等賞1席 そのだ154号 菅原孝作(角館) ▽第7類(母娘牛群・2頭1群) 1等賞 そのだ130号 菅原孝作(角館) つるだ89号 菅原孝作(角館) 第3部 肥育牛 ▽1等賞2席 徳花号 伊藤則夫(西木)

### 「新潮社写真部のネガ庫からカメラが見た作家の素顔」展 特別企画 ギャラリートーク

4月から新潮社記念文学館で好評開催中の「新潮社写真部のネガ庫からカメラが見た作家の素顔」展。6月25日、新潮社「小説新潮」編集長の江木裕計氏と新潮社写真部カメラマンの筒口直弘氏を迎え、ギャラリートークが開催されました。展示作家の一人、水上勉の写真について「撮影場所は、新潮社の中にある作家の方を『カンツメ』にする施設です」とお二人が話すと、会場からは笑い声も。貴重な話に、参加者は興味深く聴き入っていました。展覧会は7月17日(月・祝)まで開催中です。



講師の江木氏と筒口氏が1枚ずつ写真を見ながら、作家の素顔や撮影時のエピソードなどを話しました。

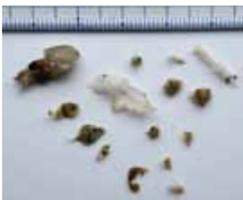
### チリメンジャコに混じっている生き物を探す

6月22日、神代小学校で5年生の児童を対象に「チリメンジャコに混じっている生き物を探す」という特別授業が開催されました。これは理科への意欲を高め、正しい顕微鏡の操作を身につけてもらうとうと実施



特別授業に興味津々の児童たち。

されました。児童たちは爪楊枝やピンセットでチリメンジャコに混じっているミリ単位の生き物を探し、イカやタコ、巻き貝などを見つけたら大喜びでした。45分の授業でしたが「もっとやりたい」「また見つけたい」などと興奮した様子で、児童たちにとっては、めったに観察することのできない海の生き物に触れるよい機会となりました。



顕微鏡で見た生き物の形は、まるでモンスター！児童たちは興奮しながら観察していました。

### 角館庁舎に消費生活センターを設置しました

これまで、市役所角館庁舎市民生活課内の消費生活相談窓口で、消費生活全般の苦情や問い合わせに対応してきましたが、昨今の特殊詐欺や悪質商法などの複雑化による被害を防止するため、7月1日に「仙北市消費生活センター」を同課内に設置しました。今後は、消費者行政機能を強化し、さらに市民の利用促進を図っていきます。



7月3日、角館庁舎の玄関入口に看板が掲げられました。お気軽にご利用ください。門脇市長(左)と中村市民福祉部次長(右)。

## まちづくり 日記

No.120

### 『果樹の可能性』

仙北市長 門脇 光浩

道の駅講演会(本号4ページ)で講師をお引き受けいただいた小川健吉・(株)十文字リーディングカンパニー社長、田沢湖クニマス未来館の竣工式に参加をいただいた後藤斎・山梨県知事、着任のあいさつに見えられた原喜孝・JA秋田おばこ代表理事組合長など、様々な皆さまから果樹の可能性をお聞きしました。

「道の駅十文字まめでらがく」は、小川社長が十文字町長だった頃、家に閉じこもりの気味の高齢者を見て、「気軽に出かけられる場所をつくりたい」と思ったことが始まりだったとか。「まめでらがく」は、そんな思いが伝わる名称です。小川社長は、「横手・平鹿地域は、昔から優秀な農家が大勢います。道の駅は冬期間も様々なイベントを開催し、リンゴなど高品質な果樹の品揃えで売上げを維持しています」と話していました。

山梨県は、ぶどうや桃、すもも等の産地で、いずれも収穫量は日本一です。そんな県でも現状に満足せず、新たな取り組みを行っています。後藤知事は、「果物は、苗を植えてから数年間、農家収益が上がりにません。そこで県が実を付ける

直前まで苗を育成管理し、その後に農家にお渡しする制度と技術の確立を研究しています」と話していました。

JA秋田おばこは、県内で最も正組合員が多く、そして米の集荷量は全国トップを誇ります。同時に稲作+αの複合経営にも熱心で、施設園芸や畜産も伸びてきました。原組合長は、「土壌や気候など、隣接するJAと栽培環境に大きな違いはありません。温暖化も考えると果樹栽培はさらに進めたい分野です。指導者も確保しています」と話していました。

果樹は生食用での流通はもろろん、それら加工食品も人気です。食文化の欧米化で多彩な活用があったり、観光との連携も見込めます。農政の大転換が目前に迫った今、農家所得の確保策として、生産物の導入と同様に、思い切った果樹振興政策が必要ですよ。

農林水産省も果樹振興を推進しています。また全国の果樹農家の約6割が1ヘクタール未満です。中山間地で無理と言ふことはありません。最近若い農業者から果樹導入を期待する意見を多数聞きます。何を考えるか、後発の有利点も…。

### かくのだてフィルムコミッション

## ロケーションだより

Kakunodate Film Commission

かくのだてフィルムコミッション  
(仙北市観光課内) ☎43-3352  
<http://kakunodate-fc.jp/>

仙北市では毎年、修学旅行で訪れた中学生の職場体験を受け入れています。かくのだてFCも数校を担当します。6月14日には、札幌市立伏見中学校の6人の生徒さんを武家屋敷通りに案内しました。

映画「たそがれ清兵衛」隠し剣鬼の爪」等の撮影が行われた武家屋敷通りは、景観に配慮して電線が見えないので、撮影を行う側からも喜ばれることを説明しました。関心を持った生徒さんから、どこにあるのという質問もありました。電線は武家屋敷通りとは別の道路沿いにあることを説明し、その場所を確認すると納得した様子でした。また、解体新書の挿絵を描いた人が角館の小田野直武という人だと伝えたところ、声を出して驚

いていました。その後「釣りバカ日誌15」の撮影が行われた松木内川堤に案内しました。堤の桜は樹齢80年の老木であるが、樹木医さんがあることや、地域全体での地道な取り組みにより、毎年見事な花を咲かせていることを説明すると、目を輝かせていました。

今回、修学旅行で訪れた生徒さんが将来大人になった時に再び角館に来てもらいたいと思うと同時に、今後も生徒さんの学習の役に立てればと感じました。

(会長 坂本 洋)



武家屋敷通りを見学する伏見中学校の生徒たち